



大樹

岩田小学校たより No. 3

令和6年6月26日

～志をもって 進んで考動する子～

葉のステージ (6/3～) が進んでいます！

葉のステージ：キーワード「向上」

★なりたい自分をイメージする

★アクションを起こそうとする

6月4日 (火) 会礼 校長の話

今日は「向上」の1つの形を紹介します。「向上」とは簡単にいうと「力がつくこと、よい方向に向かうこと」です。

今から50年前の中国、ある山間地でのことです。人ひとりがやっと通れる険しい道をひたすら歩いて、村に寄り、郵便物を集め、配る郵便配達員がいました。3日かけて山道を約120Km歩くそうです。120Kmとは磐田駅から沼津駅くらいの距離です。

長年、その仕事をしてきた年老いた配達員は体力の限界を感じていました。その男には一人息子のリュウがいました。リュウは、時々父親を手伝い、簡単な配達ができるようになっていました。父親は少しずつ、この仕事の大切さをリュウに教えていました。リュウは父親と村人の交流を目の当たりにして、郵便配達員の仕事は単に手紙を送り届けるだけではないとわかってきました。息子は郵便配達員として、少しずつ向上していました。

そして、ついに父親の仕事を正式に引き継ぐ日がやってきました。父にとって最後の、息子リュウにとっては一人前になるための、2泊3日の旅が始まりました。

リュウは郵便物が入った重たいリュックを背負います。その後を父は無言でついていきます。ある村に着きました。父は目が見えないおばあさんに、軍隊に行った孫からの手紙を渡します。仕送りのお金も入っています。おばあさんは父親にお金を包んでいた白い紙を渡し、「手紙を読んでもください。」と頼みます。父は読み上げました。「おばあさん、目はどうですか。腰の具合はどうですか。こちらは順調です。なかなか帰れないので困ったことがあったら、郵便配達の人に頼んでもください。」おばあさんは言います。「いつもと同じだね。」

父親はリュウに手紙を渡して、小さな声で「続きはお前が読め。」と言いました。リュウが紙を見ると、何も書いてありませんでした。リュウは戸惑いながら何も書いていない紙を見て、「一人暮らしはたいへんだね。早く一緒に住みたいです。」と、たどたどしく続けました。

おばあさんと別れた後、リュウは「ああやって、何年も父はあのおばあさんに白紙の手紙を読んであげてきたんだ。そして、これからは僕が読んであげなきゃいけないんだ。」と考えました。リュウは山の郵便配達員としてよい方向に向かいました。つまり向上したのです。

体は自然と大きくなります。しかし、人の中身は何もしなかったら向上しません。「自分で考えて前に進む」か、「与えられたことをまじめに取り組む」かで向上するか、しないかが決まります。岩田小の「葉のステージ」には、自分も学級も向上するチャンスがたくさんあります。

校内の樹々のように、青々と向上していく岩っ子を楽しみにしています。

各学年 「葉のステージ」の様子



【1年生】交流センターで地域の方と交流。
歌や踊りの発表をしました。



【2年生】タブレットを学習で活用しています。
「お祭りの音楽」をつくりました。



これが落花生！

【3年生】落花生の種まきをしました。どんなふうになるのかな。
3年生は理科で、ホウセンカも育てています。



【4年生】点字について学びました。うまくできたかな。



【5年生】自分の考えを伝えたり、友達の考えを聴いたりしながら、学びあいが進んでいます。



【6年生】理科では、顕微鏡を使って観察。
実験や観察で使う用具の使い方も身に付けていきます。

大樹の会（学校運営協議会）

6月13日（木）

第1回 大樹の会（学校運営協議会）を行いました。学校からは、経営方針や年間行事計画を説明し、運営協議委員の皆様と共有しました。また、総合的な学習の時間（さぎさか）や生活科の学習では、今年度も地域の方の協力のもと、様々な活動を行っていくことを共通理解しました。

今後も学校・保護者・地域がつながり、ともに子供たちの健やかな成長を育んでいきたいと思えます。



【大樹の会の皆様からの御意見】

- 話をしっかり聞いている子が多い。
- タブレットを効果的に使用している。子供たちも使い慣れている様子。
- 優しい声かけをしている子がたくさん見られた。
- 先生が子供の言葉を待ってあげている。子供たちも待つことができている。
- 少ない人数で、大人の目が行き届いている。

- ▲座っている時の姿勢が気になる子がいた。
- ▲自分の言葉でしっかり説明ができるとよい。

◇地域のよさを、一体校へ向けてどのように引き継いでいけばよいか。